2018年02月12日 中日新聞 朝刊震災 25頁

備える 3.11から 災前の策　第148回　災害時のトイレ

用足し 我慢できぬ重大事

南海トラフ巨大地震をはじめ、大きな災害が発生した場合に問題となるのがトイレだ。断水などでトイレが使えないために我慢を重ねて体調を崩し、命を失ったケースもある。便器に袋をかぶせて使う「携帯トイレ」の使用が有効な代替策になるが、関係者は「慣れが必要なので、平常時から実際に試しておくことが大切」と訴える。

（小沢慧一）

携帯トイレ 平時に練習

「トイレが使えなかったらおしっこやうんちを我慢できるかな？」。一月初旬、名古屋市港区の市港防災センターで開かれた携帯トイレの使い方講習会。愛知県碧南市のボランティア団体「減災チーム・トイレの備え」の長谷川高士代表（四三）は、頭にトレードマークの「うんち」をかぶりながら、子どもたちに説明する。

碧南市でトイレ専門店を営む長谷川さんは、災害時に用を足せないことがきっかけで命を落とす人が出たことを知り「トイレに関わる仕事をしている者として、見過ごすことができない重大事だ」と受け止めた。

二〇一六年からボランティアで携帯トイレの普及を図る講習会を始めた。これまで中部地方を中心に、約三千人の子どもや保護者に指導してきた。

災害時のトイレには「仮設トイレ」やマンホールを開けて使う「マンホールトイレ」、トラックなどに車載する「車載トイレ」などがあるが、いずれも設置には時間がかかる。長谷川さんは、「災害発生直後は、携帯トイレしか使えないと思った方がいい」と話す。

携帯トイレは袋と凝固剤がセットで、洋式トイレなどに取り付けて使う。ホームセンターやインターネットなどで一回分が百～二百円で販売されている。ただし、一日に用を足す回数を七～八回と考えると、四人家族で一週間分を準備するなら二百個ほど必要になる。

携帯トイレを使う際には、アルコール手指消毒薬やウエットティッシュ、トイレットペーパーも必要になるので、普段から多めに保管しておくことが望ましい。使用済みの袋を入れておくための密閉容器や停電時に備えたランタンなどもあるといい。

普段の便器が使えない場合は、バケツなどに携帯トイレをかぶせる方法もある。携帯トイレのセットがない場合は排せつ用の袋はゴミ袋、凝固剤は猫砂や切り刻んだ新聞紙で代用することもできる。

自宅のトイレを使うことができるなど、日常に近い環境を保てるメリットはあるが「問題は初めて使う時の抵抗感」と長谷川さんは話す。

ただ、袋の中へ用を足すことについては「コツさえつかめば、非常事態でも清潔にストレスなくできる」と指摘。防災訓練やキャンプなどで実際に使用して、いざというときのために慣れておくことが大切だと訴える。

参加者に携帯トイレの使い方を説明する長谷川さん＝名古屋市港区の市港防災センターで

長谷川さん講習会 名古屋で17日開催

4月に美濃加茂でも

長谷川さんの講習会は、十七日に名古屋学院大名古屋キャンパス白鳥学舎（名古屋市熱田区）を会場にした「三陸＆東海防災フェスティバル伝」で開かれる。四月十四、十五日にも岐阜県美濃加茂市の「アピタ美濃加茂店」で催される。

また、名古屋市港区の市港防災センターでは二月二十五日まで企画展「トイレっと防災」展を開いており、災害時のトイレの種類や使い方などを学ぶことができる。

名古屋市港防災センターで開催中の「トイレっと防災」展

大震災 上下水道 仮復旧1ヵ月

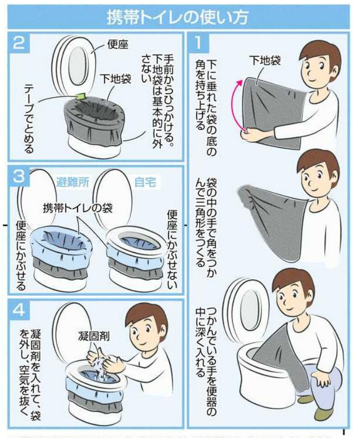
大地震が起きると電気や水道が止まり、ほとんどの水洗トイレは使えなくなる。東日本大震災では上下水道が仮復旧するのに約一カ月かかった。人は一日平均で六～八回の排尿と一～二回の排便をする。日本トイレ研究所によると、東日本大震災の発災後、六時間以内にトイレへ行きたくなった人は全体の67％に上ったという。

しかし、避難所などの仮設トイレは設置までに時間がかかる。同研究所によると、東日本大震災では仮設トイレが三日以内に避難所へ行き渡った自治体は全体の34％にとどまり、一カ月以上かかった自治体も14％あった。

トイレに行けない状況が続くと、健康を損なうリスクが高まる。二〇〇四年の新潟県中越地震では「エコノミークラス症候群」にかかる被災者が続出し、死者も出た。車中泊で長時間同じ姿勢でいたことと、トイレの回数を減らすため水の摂取を控えたことが原因となった。一六年の熊本地震では、避難所でノロウイルスの集団感染が問題となった。トイレが不潔で、トイレスペースと居住スペースを土足で行き来したことから感染が広がったとみられている。

日本トイレ研究所の加藤篤代表理事（四五）は「トイレが汚い、暗い、怖いなど、普段とちょっと使い勝手が違うだけで使用を控えてしまうようになる。行政の準備には限界がある。災害に備える際には、トイレのことも忘れないでほしい」と訴える。

袋と凝固剤で断水でも清潔に


携帯トイレの使い方
1
下地袋
下に垂れた袋の底の角を持ち上げる
袋の中の手で角をつかんで三角形をつくる
つかんでいる手を便器の中に深く入れる
2
便座
下地袋
手前からひっかける。下地袋は基本的に外さない
テープでとめる
3
避難所
自宅
携帯トイレの袋
便座にかぶせる
便座にかぶせない
4
凝固剤
凝固剤を入れて、袋を外し、空気を抜く

- ▼便器は悪臭や害虫を防ぐため、常に水がたまる仕組みになっている。このまま携帯トイレの袋をかぶせるとぬれてしまうので、初めに「下地袋」をかぶせる。下地袋は一般のポリ袋を使う。
- ▼下地袋をかぶせるには、まず袋に腕を入れ、底の角を内側から軽くつかむ。下に垂れた袋の底の角も重ねてつかんで三角形を作る。
- ▼そのまま袋ごと手を便器に入れ、袋から腕を抜く。便器の手前に袋をひっかけ、奥へのばして広げる。基本的に取り換える必要はないので、ずり落ちないようにテープで固定する。
- ▼下地袋の上に携帯トイレの袋を同じ要領でかぶせる。便器だけにかぶせる方式は感触が普段通りで抵抗感が薄く、便座までかぶせる方式は尿や便が袋から漏れ出しにくく、清潔に保ちやすい利点がある。避難所など不特定多数が使うトイレの場合は、感染症予防などの面から便座にかぶせるほうが望ましい。
- ▼凝固剤は用を足す前に入れる種類と後に入れる種類があるので、説明書で確認しておく。用を足し終えたら１回ずつ携帯トイレの袋を取り出し、空気を抜いて口元をしばり、保管する。し尿と一般の可燃物は回収方法が違う場合があるので、分けておく。

歴史に学ぶ ⑰

三河地震 寺境内に2㍍段差

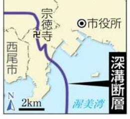
二㍍近い段差を挟んで立つ二つのお堂。一九四五（昭和二十）年一月十三日の三河地震の前は、同じ高さにあったという。愛知県蒲郡市の宗徳寺に残る隆起の跡は、地震のすさまじさを物語る。

「間にあった小さな書院が押しつぶされ、中で寝ていた兵隊さんが一人亡くなったと聞いています」と内野智翔副住職（三〇）。裏山の階段を上ると、市が文化財に指定した長さ約四十㍍の地割れも見学できる。

三河地震は、三河湾を震源とするマグニチュード（M）6・8（一説には7・1）の直下型地震。市内では「深溝断層」に沿って地割れが現れた。宗徳寺の元総代で、当時国民学校五年生だった八田日夫さん（八四）は「寺から南へずっと、田んぼの中に黒い帯ができていた」と振り返る。

皆が寝静まっていた午前三時三十八分、揺れに跳び起きた。扉が倒れた玄関からはだしで自宅前の道へ出て、ほっと一息ついた頃になって、あちこちで家が倒れる音が聞こえてきた。

八田さん宅がある断層の東側より、地面が隆起した西側はさらに被害が大きかったといい、親友は家の倒壊に巻き込まれて亡くなった。がれきの下から「死んじゃう、死んじゃう」と助けを求める声がだんだん細くなり、聞こえなくなった、と後で聞いた。そんな体験を地元の小学校などで話している。「阪神大震災と同じ直下型地震がここでもあった。身近に断層があることは、伝えていきたい」（蒲郡通信局・木下大資）



左上に見えるお堂は三河地震の前、右の本堂と同じ高さに立っていた（本堂は戦後に建て増しした）＝蒲郡市一色町の宗徳寺で

「備える」は毎月第一月曜日に掲載予定。次回は三月五日です。

(c).中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています